

「 家庭基礎 」 シラバス

学科	みらい創造工学科	学年	1 年	類型		組	6 組	単位数	2
使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）								
副教材等	令和 8 年度 「家庭科ノート」（愛媛県高等学校家庭科教育研究会）								

1 学習の到達目標

① 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を深めることができるとともに、関連する技能を身に付ける。
② 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付ける。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を 5 段階の評定に総括する。

知識・技能	生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を深めることができるとともに、関連する技能を身に付けているか。	(2)(3)(4)(5)(6) (7)(8)(9)(10)
思考・判断・表現	生活の中から問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、生涯を見通して課題を解決する力が身に付いているか。	(2)(3)(4)(5)(6) (7)(8)(9)(10)
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度が身に付いているか。	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(10)
評価方法	主な評価項目	
授業準備の点検	(1)授業の準備についての点検	
学習状況の観察	(2)授業態度、グループワーク等の取り組み状況 (3)発問評価 (4)自己評価の実施	
課題などの提出状況	(5)ノート、授業プリント、グループワーク等でのワークシート提出	
ホームプロジェクト	(6)長期休業中の課題の取組状況	
ペーパーテスト	(7)定期考査	
実技	(8)レポート提出 (9)実技テスト (10)実習作品の提出	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一学期	家庭科の学び方 第1章生涯を見通す 人生を展望する 目標を持って生きる 第2章人生をつくる 人生をつくる 家族、家庭を見つめる これからの家庭生活と社会 第4章超高齢社会を共に生きる 高齢期の心身の特徴 これからの超高齢社会 第5章共に生き、共に支える 生活と福祉・社会保障 共に生きる	・学習の意義や内容・方法・評価を理解する。 ・学校家庭クラブとホームプロジェクトの意義や進め方について理解する。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生涯発達の視点から、青年期の意義と発達課題を理解する。 ・家庭生活と現代の家庭に求められている諸機能を理解する。 ・生活における価値観や生き方が多様化していることを認識し、自己の価値観に基づく生活設計の必要性を理解する。 ・わが国の高齢化の現状を理解し、将来の高齢社会の在り方を考える。 ・高齢期の心身の特徴、個人差が大きいことを理解する。 ・高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。 ・一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知り、社会保障制度の理念と内容を学ぶ。 ・ノーマライゼーションの実現に向けて実践的な態度を身に付ける。	(8)(9)(10) (8)(9)(10) (8)(9)(10)
二学期	第7章衣生活をつくる 被服の役割を考える 被服の入手と管理 これからの衣生活 第3章子どもと共に育つ命を育む 子どもと関わる これからの保育環境 第6章 食生活をつくる 食生活の課題について考える 食事の栄養・食品 食品の選択と安全 生涯の健康と食事計画 調理の基本	・被服の機能を理解し、望ましい着装について考える。 ・被服材料の特徴を理解し、品質表示等の意味を理解する。 ・被服に適した洗濯や管理方法を知る。 ・子どもの育つ力と発達段階を知る。 ・乳幼児期は人間の発達の基礎を作る最も重要な時期であることを理解する。 ・遊び、基本的生活習慣の形成について学ぶ。 ・子どもを取り巻く社会変化の現状を理解し、子育て支援の在り方を考える。 ・日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について理解する。 ・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 ・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。	(8)(9)(10) (8) (8)(9)(10)
三学期	第9章経済計画を営む これからの経済生活 第10章持続可能な生活を営む 第8章住生活をつくる 住居の機能と防災 これからの住生活 第11章これからの生活を創造する	・家計の構造や家計管理を理解し、ライフステージや社会保障制度などと関連づけて考察する。 ・消費行動の意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深め、生活情報を適切に活用ができる。 ・消費者としての権利と責任を理解し、契約の重要性や消費者保護のしくみについて理解を深める。 ・住居の機能や間取りの基礎知識を学ぶ。 ・ライフステージにあった住居を考える。 ・住居を選ぶ際、住環境や地域社会とのつながりを理解する。	(8)(9)(10) (8)(9)(10) (8)(9)(10)

備考 (1)(2)(3)(4)(5)(7)については、全ての単元において評価項目とする。